「価値あるもの」

関西学生卓球連盟　幹事長　川島　奈々加

この度は、「日学連アゴラ」の第一回目に、学生代表として、文章を掲載して頂けることに、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

私はこの機会に、大学生活で得た「価値あるもの」について考えました。

私が大学生活の４年間を通じて得た、最も価値のあるものは「戦友」であると考えています。部活動のチームメイトは、一般的な大学生の多くが身を置く、サークルやアルバイトでのコミュニティだけでは中々得ることのできないものでしょう。活動していく中で、共に辛いことを乗り越えたり、自分の弱い部分を見せたり、相手の弱い部分を補ったり、互いに支え合うことではじめて「友人」が「戦友」になります。

　私は特にチームメイトに恵まれていると、常日頃感じています。４年間の学連とプレイヤーの両立は、このチームだったから、やり遂げることができました。練習に参加できない日も多く、コミュニケーションを取る機会が人一倍少ない中でも、練習に行くと嬉しそうに話しかけてくれるチームメイト、練習に参加できない期間には連絡をくれるチームメイトがたくさんいました。些細なことかもしれませんが、この暖かさに支えられ、このチームメイトのためならば学連を頑張ろう、と思えました。一緒にプレーしている時間は少なかったかもしれませんが、私は私のできることに全力で取り組んでいたし、大会で活躍するみんなと「戦友」であると、胸を張って言うことができます。

　私は「学連」と言う立場に身を置いていましたが、部活動という組織において、みんなそれぞれ役割を持っていることと思います。各々が自分の立場、役割をもち、チームのために全力を尽くしているのであれば、その仲間たちは戦友です。大学を卒業した後は、ほとんどの人が社会人として新しい組織に身を置くことになるでしょう。しかし、部活動のように、同じ熱量を持って同じ目標に向かって取り組む「戦友」というものは、そう簡単にできるものではありません。４年間で得たこの宝物を、私自身、一生大切にしていきたいし、選手の皆様にも大切にしていただきたいと考えています。